

教科書のない学習

学校では様々なことを学びます。中には、教科書のない学習もあります。その一つが中学年以上の「総合的な学習の時間」です。これは、各教科で学んだことを結集して、問題を解決する力を身に付ける学習です。

本年度は「ふるさと・須田」をテーマに学習を行っています。今回は、「須田の梨」を取り上げた三年生の学習の様子を紹介しています。

地域学習「ふるさと」学習

ふるさと学習というと、地域のことを見学・体験することが思い浮かびます。

確かに、子供の学習活動に地域の施設などに出席、インタビューをしたり、仕事の一部を体験したりする場合があります。しかし、それで終わらせず、今まで意識にも止めなかったことの中にある「素晴らしい」に気付いていくことに価値があります。

子供の見方・感じ方は、

大人を一瞬で包み込む

以前に勤務した学校で、子供たちの口から、「まちの人は天才だ」という言葉が飛び出したことがあります。毎春

の祭りに練り出す「傘鉾(かさぼこ)」制作の際に出た言葉です。理由を聞いてみると、

「いつも使っている、たわしやざるが、生き生きしてきた。(モノ)が生かされていく。それに、祭りが終わったら、はずして、前と同じように使う。こんなことを考えついたひとは天才だよ。」でした。

「あたりまえ」から気付く

子供たちにとって、「地域」は、日々関わっている「あたりまえ」の存在かもしれませぬ。しかし、何気なく見ていた「モノ・ヒト・コト(行事・歴史等)」と深く関わることで、「ふるさと」の見え方が「誇り」に変わっていきます。

「ふるさと」・須田「学習」の訳

須田小学校では、「ふるさと・須田」学習のように、中点(・)を入れていきます。これは、須田(地域)を学び、ふるさと(としての誇り)を感じる学習を目指し、それをつなぐ(・)のために、各教員が、学ぶことを選び出し、子供が「見えている」のに「気付かない」大切なものを発見するための「つなぎ」役になっていくことを意味しています。

(地域連携部)

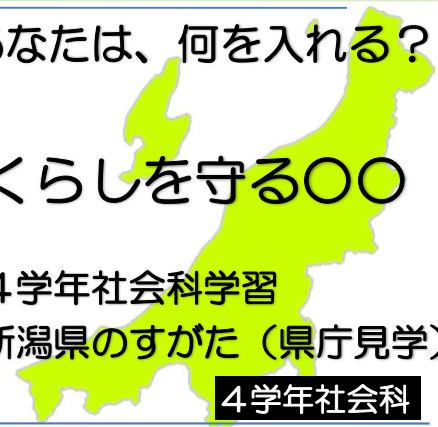
一目をつぶって…浮かんでくる「ふるさと」の原風景に

あなたは、何を入れる？

くらしを守る〇〇

4学年社会科学習 新潟県のすがた(県庁見学)

4学年社会科



う？」等、実際に見たことから生まれる疑問は、調べる意欲のエネルギーになり、お互いに結びつき、次第に自分たちの暮らしとの関係までつながってきます。

(四学年担当)



子供目線

災害から守る

四年

県庁を見学して学んだことは、災害から私たちのくらしを守るための備えについてです。

まず、県庁には、災害や危機に備えるための危機管理センターがあります。ここには、県民の安心安全のために、二十四時間体制で運営されています。そのため、県庁は、一万四千本の杭打ちがさられていている地震に強い建物です。

次に、放射線量率などをリアルタイムで見ることができ、テレメーター室があります。風向きなども分かり、放射線量なども、自動的に分かれます。

このように、私たちのくらしを守るため、いろいろな人たちが働いていることが分かりました。

信濃川が海に注ぐ

四年

県庁から周りのようすを見ると、方向によって特ちょうがありました。

北東には、朱鷺メッセや万代シティ、NEXT21があり、信濃川が日本海に注いでいました。

右手(南東)に目を向けると、デンカビックスワンスタジアムやハードオフエコスタジアム新潟があり、奥には越後山脈が広がっています。

左手(南西)に目をもちすと、たくさんの建物のほか、弥彦山や角田山、そして関屋分水が見えます。

このように、新潟市は、信濃川が海に注ぐ土地で、平らな土地が広がっていました。昔の人たちも、今と同じようにくらししていたのだろうか。